

日本とブラジルの 120年

展示史料解説



平成 27 年 10 月 13 日（火）～平成 28 年 3 月 31 日（木）
於：外務省外交史料館別館展示室

はじめに

日本とブラジルは 1895 (明治 28) 年 11 月 5 日、「日伯修好通商航海条約」調印により外交関係を樹立しました。2015 年は 120 周年の節目の年に当たります。日本とブラジルの長きにわたる伝統的な友好関係は、両国民間の交流と絆によって力強く支えられています。

2014 年 8 月、日本・ブラジル首脳会談で安倍晋三総理大臣とルセーフ (H. E. Ms. Dilma Vana Rousseff) 大統領は、外交関係樹立 120 周年を迎えることを契機に、両国関係をさらに強化・深化するため、記念行事を実施することを確認しました。これを受けて、日ブラジル外交関係樹立 120 周年を記念する行事が様々な形で実行されています。

外交史料館では、この機会に近現代における両国の交流の歴史をたどり、どのように両国が友好関係を構築したのかをテーマに、当館所蔵史料によって現在の友好関係の源泉をひも解いていく特別展示「日本とブラジルの 120 年」を開催します。

2015 年をお互いの理解を一層深める年として、様々な分野で、日本とブラジルの交流がさらに促進され活発化していく一助になれば幸いです。

目次

「日本国及伯刺西爾合衆国間修好通商航海条約」	1
I 「伯刺西爾」(ブラジル) との出会い	2
II 日伯修好通商航海条約調印	4
III 笠戸丸と初期移民	8
IV ブラジル独立百年祭	11
V 移民社会の発展	14
VI 経済・文化交流	17
VII 戦後の交流	20
日本・ブラジル交流史年表 (1867 年～1960 年)	23
主要参考文献	24

「日本国及伯刺西爾合衆国間修好通商航海条約」



【展示史料 0】

「日本国及伯刺西爾国間修好通商航海条約」

批准書（左）と批准書を入れた箱（右）

1895（明治28）年11月5日、パリにおいて、^{そねあらすけ}曾禰荒助駐仏日本公使とアルメイダ（Gabriel de Toledo Piza E Almeida）駐仏ブラジル公使との間で「日伯修好通商航海条約」（「日本国及伯刺西爾合衆国間修好通商航海条約」）が調印されました（同条約をもって正式国交樹立）。この条約は1897（明治30）年2月に批准書交換が行われ、ブラジルに日本公使館が設置され、8月には初代公使^{ちんだすてみ}珍田捨巳が着任しました。

「日伯修好通商航海条約」は、「永久堅固ノ和親」の精神に基づき日本とブラジルの地理的な距離を乗り越えて両国の発展の礎となった条約です。この条約を締結した後、日本から多くの移民がブラジルの地に渡りました。日本移民は遠く異国の地で様々な苦楽を経験しました。現在まで続く友好関係の原点は、そうした先人たちの苦労の上にあるといえます。

I 「伯刺西爾」(ブラジル) との出会い

展示史料1 「開陽丸」のリオデジャネイロ寄港の報(『続通信全覽』より)

展示史料2 「南米伯刺西爾、中米ニ加拉瓦、瓦地馬拉、西印度ゴアデロブ探検報告」

1861(文久元)年、海軍操練所教授であつた榎本武揚^{えのもとたけあき}は、幕府の発注した軍艦「開陽丸」の建造監督を兼ねてオランダに留学しました。榎本は1866(慶応2)年に留学を終え、開陽丸に乗って帰朝途中の翌年1月21日(同12月16日)年、リオデジャネイロに寄港しました。開陽丸は同地で「甚々宜しき風聞を得たり」と、幕末外交史料集『続通信全覽』の「荷蘭(オランダ)製造軍艦開陽丸一件」に記されています。

その後、新政府に出仕した榎本は、北海道開拓使、駐露公使、駐清公使などを経て1891(明治24)年に外務大臣となり、条約改正事業にあたる一方、外務省に移民課を設置して移民事業に意欲を見せました。また、外務大臣辞任後の1893(明治26)年には「殖民協会」を設立し、移住地建設計画に取り組みました。

同年、殖民協会会員でもあつた外務省通商局の根本正^{ねもとしょう}はメキシコに赴き、同国の地質・気候・国情などにつき調査しました。根本はさらに1894(明治27)年7月、ブラジル・ニカラグア・グアテマラの調査にも向かいました。実に234日かけた調査の内容は、その報告書である「南米伯刺西爾、中米ニ加拉瓦、瓦地馬拉、西印度ゴアデロブ探検報告」※に詳細に記されています。この報告書において根本は、ブラジルのサンパウロ州が「土地豊饒気候温和」であり、「法律正明ニシテ山野ヲ旅行スルニモ短銃ノ携帯ヲ要セズ」と評し、同地が移民に適していることを述べました。

※伯刺西爾=ブラジル

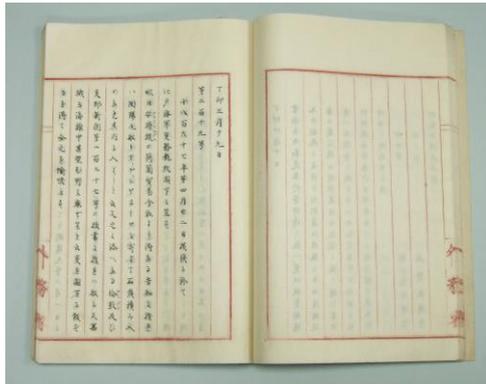
ニ加拉瓦=ニカラグア

瓦地馬拉=グアテマラ

ゴアデロブ=現在のフランス領グアドループ島



榎本武揚



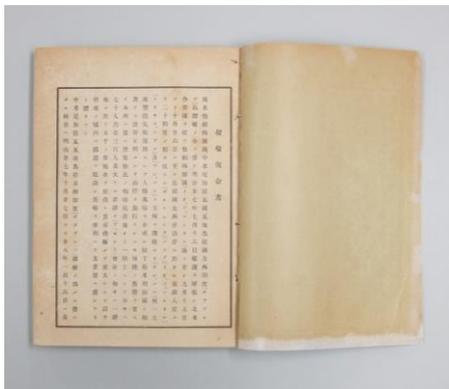
【展示史料1】

開陽丸のリオデジャネイロ寄港の報（『続通信全覧』より）

丁卯三月十九日

第二百十九号

千八百六十七年第四月廿二日横濱に於て江戸海軍事務執政閣下に呈す
 昨日安特堤（アムステルダム）の荷蘭貿易会社より得たる告知に據れハ開陽丸船
 リオ、デ、シヤネイロに寄りて石炭積み入のため其内に入りしと云又之に添へたる倫
 敦（ロンドン）及ひ支那新聞第二百三十七号の抜書に據れハ船も又器械も海旅中其
 望む所に応ぜりと云事を閣下に報ずるを得て余之を愉快とす



【展示史料2】

「南米伯刺西爾、中米尼加拉瓦、瓦地馬拉、西印度ゴアデロプ探検報告」

…「サン・パロ」（サンパウロ）州ハ土地豊饒氣候温和ニシテ人情風俗モ亦或ルラ
 丁（ラテン）亜米利加國ト相異ナリ法律正明ニシテ山野ヲ旅行スルニモ短銃ヲ携
 帶ヲ要セズ本州ハ真ニ世界無比ノ珈琲栽培地ナリ…

II 日伯修好通商航海条約調印

展示史料 3「日本国及伯刺西爾合衆国間修好通商航海条約」(調印書)

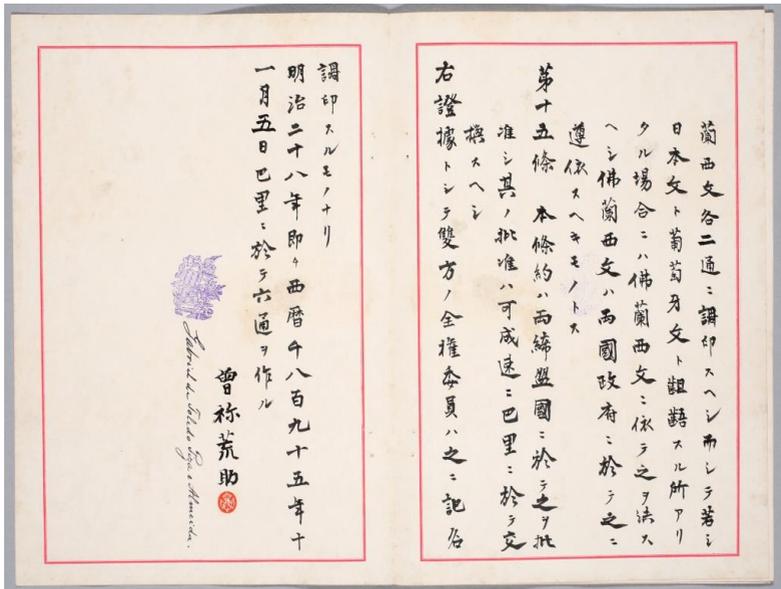
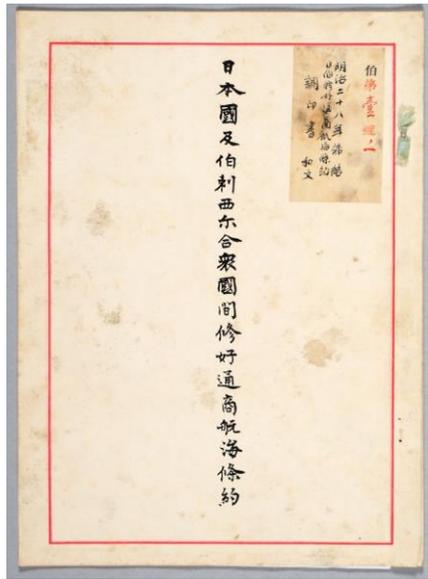
展示史料 4 杉村濬信任状に対するブラジル大統領答書(国書)

展示史料 5「南米伯刺西爾サンパウロ州移民状況視察復命書」

19世紀初頭にポルトガルから独立したブラジル帝国は、1888(明治21)年、欧米にならって奴隷解放を行いました。しかし、そのために生じた労働力不足は農園主の不満を招き、それに端を発した革命により、翌年帝政から共和制に移行しました。その後ブラジル合衆国政府は、移民を労働力として積極的に受け入れました。また1894(明治27)年からは、移民送出を希望する各国の移民会社はブラジル各州の政府と個別に契約することとなりました。

ブラジル側では日本移民の受入れ態勢が整っていましたが、両国間には正式な外交関係が無いとの理由から、日本はブラジルからの移民送出要請に答えることができませんでした。先述のように1895(明治28)年11月5日、パリにおいて、曾そ彌ね荒助あらかげ駐仏日本公使とアルメイダ(Gabriel De Toledo Piza E Almeida)駐仏ブラジル公使が「日伯修好通商航海条約」に調印し、外交関係が樹立されました。初期の駐ブラジル日本公使の主な任務は、ブラジルが移民送出に適するかどうか調査することでした。ブラジル公使館が設置された明治30年代前半にはコーヒー価格の暴落による恐慌があり、そのため初代公使ちんだすてみ珍田捨巳、二代公使おおこしなりのり大越成徳はいずれもブラジル移民送出には慎重でした。この見方を転換したのが三代公使すぎむらふかし杉村濬でした。杉村は1905(明治38)年6月30日に提出した「南米伯刺西爾サンパウロ州移民状況視察復命書」で、北米やハワイで排斥されていた日本移民にとり、サンパウロ州が新たな移住地として「天与の楽郷福土」になると期待しました。この「復命書」は外務省の『通商彙纂』※に掲載され、新聞にも報じられたため、移民に熱意を持つ人々から多大な反響がありました。杉村公使は在任中の翌年5月21日、病気により急逝し、現地に埋葬されました。

※『通商彙纂』: 海外通商事情に対する国内関係者の関心の高まりをうけ、情報を周知するために外務省通商局が刊行、各府県や商工会議所に配布したものです。



葡西文各二通ニ調印スヘシテ若シ
 日本文ト葡萄牙文ト齟齬スル所アリ
 タル場合ニハ佛蘭西文ニ依テ之ヲ決ス
 (シ佛蘭西文ハ兩國政府ニ於テ之ニ
 遵依スヘキモノトス
 第十五條 本條約ハ西締盟國ニ於テ之ヲ批
 准シ其ノ批准ハ可成速ニ巴里ニ於テ交
 換スヘシ
 右證據トシテ雙方ノ全權委員ハ之ニ記名

調印スルモノナリ
 明治二十八年即チ西曆今八百九十五年十
 一月五日巴里ニ於テ六通ヲ作ル
 曾祿荒助

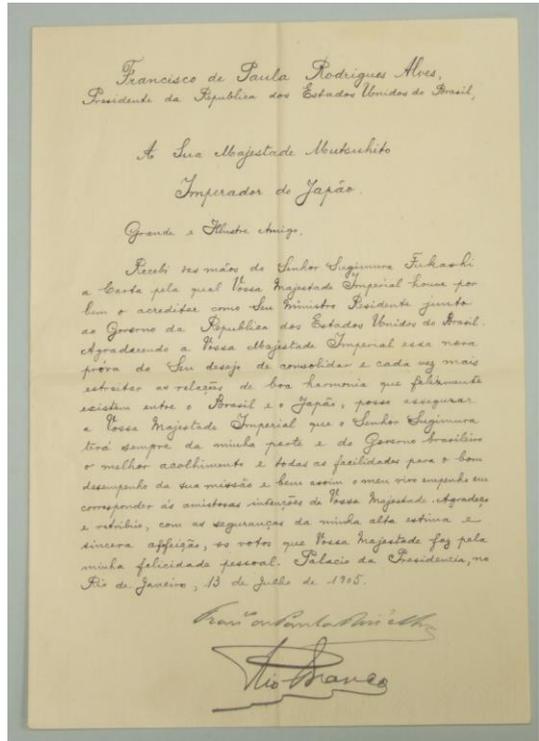

 S. S. ...
 S. S. ...

【展示史料3】
「日本国及伯刺西爾合衆国間修好通商航海条約」(調印書)



杉村 濬

(ブラジル日本移民史料館提供)



【展示史料4】

杉村濬信任状に対するブラジル大統領の答書

(和訳)

ブラジル合衆国大統領フランシスコ・デ・パウラ・ロドリゲス・アルヴェスより

偉大なる友人である日本国天皇睦仁陛下へ
杉村濬氏より、陛下が同氏をブラジル合衆国政府における公使として任命する旨の信任状を受領しました。

陛下が、幸いにも両国間に存在する、調和の取れた関係をますます緊密化することを希望しておられると承り、私は陛下に対し、杉村氏が常に私自身およびブラジル政府より最高の取り扱いを受け、その使命を果たされるにあたり、あらゆる手立てを使い、陛下の友好的発意に応えるべく努力する所存です。陛下が私自身の安寧を望んでおられることに対し、私は自らの最高の意思を持ってそれに対応する所存です。

リオデジャネイロの大統領官邸において、1905年7月13日
フランシスコ・デ・パウラ・ロドリゲス・アルヴェス 親書
リオ ブランコ男爵 副書

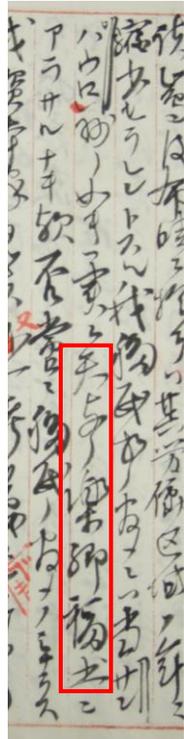


南米伯刺西爾サンパウロ州移民状況視察復命書の送り状

【展示史料5】

南米伯刺西爾サンパウロ州移民状況視察復命書

…豪州（オーストラリア）ニ於テハ全禁セラレ北米ニ於テハ窘迫ニ遭ヒ加奈陀（カナダ）ニ於テハ排斥セラレ南洋諸島及布哇（ハワイ）ニ於テハ其労働区域ヲ年々縮少セラレントスル我移民等ノ為メニハ当サンパウロ州ノ如キハ実ニ天与ノ楽郷福土ニアラサルナキ歟否啻ニ移民ノ為メノミナラス我資本家タル者又一考ヲ要スベキモノアリ夫ハ米穀其他諸般ノ耕作ニ適スル膏腴ノ地ニシテ而モ鉄道附近ニ位シテ運輸交通ノ便アルニ拘ハラス地価極メテ廉価ナルカ故ニ資本家若クハ起業家タル者ハ此等ノ地所ヲ買受ケ此ニ自ラ日本村落ヲ建設シ…



III 笠戸丸と初期移民

- 展示史料 6 笠戸丸移民名簿（皇国殖民合資会社提出）
- 展示史料 7 笠戸丸出発、到着を伝える電報
- 展示史料 8 皇国殖民合資会社移民契約証
- 展示史料 9 第一回移民についての水野龍報告書
- 展示史料 10 明治時代末期の移民写真（野田良治通訳官報告書より）

日伯修好通商航海条約締結後、東洋移民会社、日本移民会社などの移民会社がサンパウロ州との移民契約に臨みましたが、コーヒーの価格暴落などにより関係者の警戒心が高まり、いずれも結実しませんでした。最初にブラジル移民を実現させたのは、水野龍^{みずのりょう}の設立した皇国殖民合資会社でした。水野もまた杉村公使の報告書を読み、ブラジル移民実施の機が熟しつつあるのを感じていました。水野は実地調査のため単身渡伯し、サンパウロ州と契約を結んで日本移民送出に至りました。水野自身も乗船した第一回移民船笠戸丸は、781名の移民を乗せて1908（明治41）年4月28日に神戸を出航し、同年6月18日にサントスに到着しました。

第一回移民の成否はブラジル移民の今後を左右する大問題であったため、在ブラジル公使館は日本移民の雇用形態、生活、収入などの状況に目配りし、次々と外務省に調査報告書を送りました。サンパウロ州の移民事情について野田良治^{のだりょうじ}公使館二等通訳官が1909（明治42）年に作成した調査報告書は、ブラジル側が「コーヒーコロノ」（コーヒー園での契約労働者）を求めていたにもかかわらず、コーヒー園に定着したのは全渡航者の4分の1に過ぎなかったため、今後の渡航者の選出に一考を要すると述べています。第一回移民については他方面からも同様の批判があり、農業者だけを選ばなかったことや家族組織が不完全であったために離散を生じたという指摘に対し、水野龍は外務省に提出した報告書で反論しました。

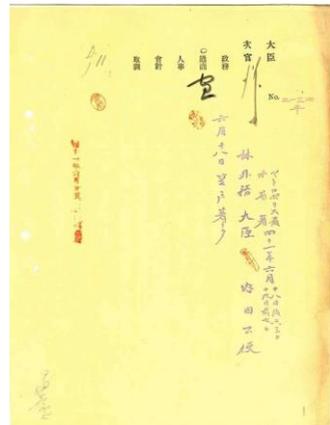
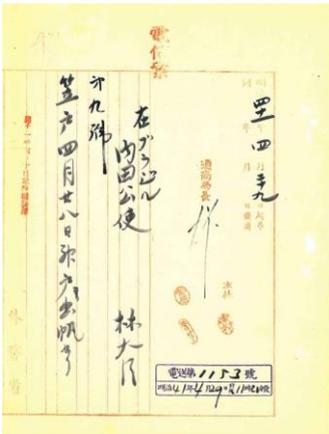
その後、渡航回数を重ねるごとに移民の状況は改善され、日本移民の評価は次第に高まりました。



「笠戸丸」

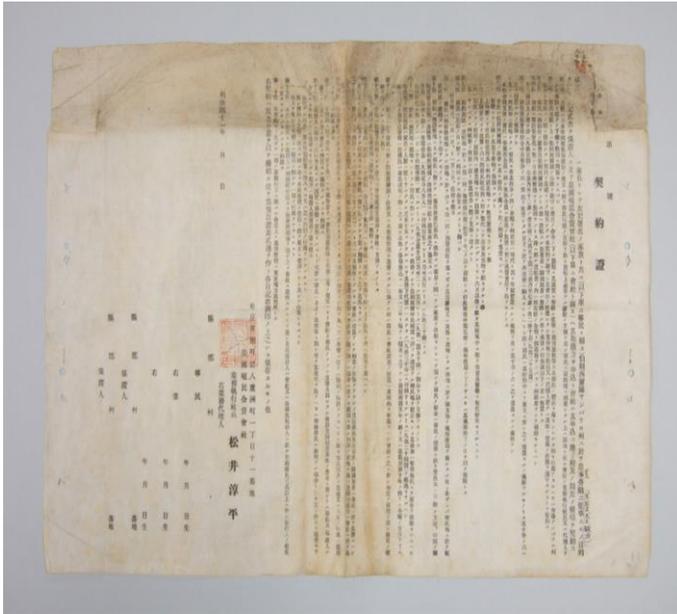


【展示史料6】
笠戸丸移民名簿

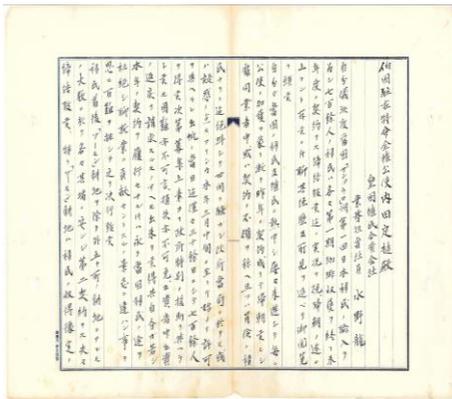


【展示史料7】

笠戸丸出発（左）、到着を伝える電報（右）



【展示史料 8】
皇国殖民合資会社移民契約書（雛形）



【展示史料 9】
第一回移民についての水野龍報告書

…自分ガ当国ノ移民及殖民ニ熱中シ
屢々来遊シテ毎ニ公使ノ加護ヲ蒙リ
漸ク昨年ノ契約成リテ帰朝候ヒシ処
同業者中或ハ契約ノ不備ヲ称ヘ且ツ
ハ冒険ノ移民ナリト迄絶叫シテ世間
ヲ騒ガシ政府当局ニ於テモ或ハ疑惑
ノ点モアリシカ本年三月中旬ニ至リ
テ始メテ許可ヲ与ヘラレ出帆ノ当日
迄僅々三十余日ニシテ七百余人ヲ得
候モ困難亦不可言、損失亦不可免、
出資者中出資ノ返戻ヲ請求スルモノ
サヘモ出来リ候得共自分ガ若シ本年
ノ契約ヲ履行セサルトキハ永ク当国
移民ノ途ヲ杜絶シ聊斯業ニ貢献セン
トスルノ素志ニ違ハン事ヲ思ヒ百難
ヲ排シテ之ヲ決行致候…

IV ブラジル独立百年祭

- 展示史料 11 ブラジル独立百年祭に特派使節派遣の閣議決定
- 展示史料 12 ブラジル独立百年祭につき堀口九萬一公使を特派大使に任ずる上奏案
- 展示史料 13 特派大使堀口九萬一信任状に対するブラジル大統領答書 (国書)
- 展示史料 14 独立百年記念に寄贈が計画された金灯笼の凶案

1922 (大正 11) 年 9 月、ブラジルでは、ポルトガルからの独立百年を記念した祭典が催されました。当時、南米隣接諸国間では大統領就任式などの祝賀には互いに軍艦・特派使節を派遣するのが慣例となっており、同祭典にも米州諸国が特使の派遣を予定しているとの情報が日本政府に伝えられました。ブラジル側からも特使派遣の要請があったため、日本政府は、この式典に海軍練習艦三隻 (「浅間」・「磐手」・「出雲」) を派遣するとともに、当時の駐伯公使堀口九萬一を特派大使に任命して参列させました。



堀口九萬一
(長沢倉吉編著『藤崎三郎助』より)

練習艦三隻は 9 月 3 日にリオデジャネイロに入港しました。同 6 日に特派大使の国書奉呈式、独立記念日の 7 日には独立記念万国博覧会 (日本も出品) 開会式があり、その後も観艦式及び晩餐会、舞踏会など 9 月 16 日まで連日公式の催しが続きました。

また、独立百年の記念として、在留邦人の寄附によりリオデジャネイロ市の大通り Avenida Rio Branco に島田佳矣帝国美術学校教授のデザインした豪華な金灯笼の建立が計画されましたが、資金繰りの目途がつかなかったため実現しませんでした。

大正十一年二月廿八日
閣議決定

特使
岩上五郎
杏陽

伯刺西爾共和國ニ於テハ來九月七日獨立百年祭
ヲ舉行スル趣ヲ以テ今般回國政府ヨリ右祝典ニ
帝國政府ノ代表者參列方ヲ招請シ來リタル處
右ハ彼我兩國ノ親善關係ニ鑑ミ且晁晝ニ亞爾
然丁國ノ獨立百年祭ニ際シ帝國政府ヨリ特派

外務省

使節及軍艦ヲ派遣シ又墨西哥及秘魯兩國獨立
百年祭ニ特派使節ヲ派遣シタル先例モアルニ付
此際右伯刺西爾國ノ招請ヲ受諾シ尙帝國代表者
ノ氏名等ハ進テ決定ノ上先方ヘ通知スルコトヲ致
度

備考

- 一 伯國政府ハ目下回國首府住宅掃底ノ際トテ各國
トモ同地駐在使臣ヲ以テ特派使節ト爲ス様希望
スル内意ナル趣在本邦回國公使ヨリ申出アリタリ
- 二 他諸國ノ態度ハ未タ明カナラサルモ先例モアリ
特ニ英米佛伊等ノ諸國ハ伯國ト大使ヲ交換セ
ル次第ニモアリ代表者ヲ參列セシムルコト思ハレ
- 三 帝國軍艦派遣方ニ付海軍省ヨリ閣議案ヲ提
出スル由

外務省

【展示史料 11】

ブラジル獨立百年祭に特派使節派遣の閣議決定



【展示史料 13】
特派大使堀口九萬一信任状に対する
ブラジル大統領の答書

ブラジル合衆国大統領アルツール・ダ・シルヴァ・ベルナルデスより

偉大にして良き友である日本国天皇嘉仁陛下へ

私の前任者は、陛下が堀口九萬一公使をブラジル独立100年式典に参列のため特派大使として任命されたご署名入りの信任状を受領する名誉を得ました。

私は陛下のこの新たなご厚意の表れが、両国間にすでに存在する緊密な友誼を確認するものと感謝いたします。

私は堀口特派大使がブラジル政府および私の前任者によって最高の処遇を受けたことをご報告し、この書簡を通じて陛下個人のご幸福および日本帝国の繁栄をお祈り申し上げるとともに、陛下の忠実なる友人として、最高の敬意と誠実ある友情の証として、署名いたします。

リオデジャネイロの大統領官邸にて、1923年3月21日
アルツール・ダ・シルヴァ・ベルナルデス 親書
ジョゼー・フェリックス・アルヴェス・パシエッコ 副書



【展示史料 14】
独立百年記念に寄贈が計画
された金灯籠の図案



V 移民社会の発展

- 展示史料 15 移民募集のポスター
- 展示史料 16 ブラジル移民 25 周年記念式典の写真
- 展示史料 17 25 周年記念ポストカード
- 展示史料 18 25 周年式典で功労者に贈られた表彰状（雛形）
- 展示史料 19 叙勲記念写真
- 展示史料 20 日本病院設計図
- 展示史料 21 日本病院建設への下賜金請願につき支援を求める内山岩太郎サンパウロ総領事より重光葵外務次官宛書翰

1924（大正 13）年のいわゆる「排日移民法」によってアメリカへの移民が禁止されたことで、ブラジルは移民送出先として一層注目されました。また、1923（大正 12）年にブラジル移民に対する渡航費補助が開始され、移民数は年々増加しました。戦前最多の 23,299 人を送り出した 1933（昭和 8）年には、ブラジル移民開始から 25 周年の記念式典が行われました。式典では、移民社会発展に尽くした功労者に表彰状が贈られ、記念の銀杯やポストカードも作製されました。また、日本政府は、ブラジル移民事業創設者として、水野龍と上塚周平に勲章を授与しました。上塚は、皇国殖民合資会社代理人として笠戸丸で水野とともに渡伯した人物で、「ブラジル移民の父」といわれています。上塚が詠んだ「たざれや 樹かげに泣いて 珈琲もぎ」は、初期移民の苦労を綴った句として知られています。

ブラジル移民 25 周年記念式典では、移民開始初期から建設が望まれていた日本病院の定礎式も行われました。この病院建設のためには、内山岩太郎駐サンパウロ総領事が宮内省に下賜金を願ひ出るなど尽力し、重光葵外務次官に支援を求める書翰を送っています。その結果、1934（昭和 9）年には宮中より金 5 万円の下賜がありました。また、日本での後援会も発足し各所より義捐金が寄せられ、移民たちも献金を行いました。設計図案は日本側で何度か練り直されましたが決まらず、最終的にはレゼンデ・ピュッシュ（Resende Puech）サンパウロ医科大学副学長に依頼し、日本外務省派遣の建築技師と共に検討した結果、病床 150～200 を備える L 字型、総建築面積 7,125 m²、地階を含め 6 層構成の鉄筋コンクリート製と定まりました。また、鉄筋などの資材は日本から輸送されました。



【展示史料 15】
移民募集のポスター



【展示史料 16】
ブラジル移民 25 周年記念式典写真



【展示史料 17】
25周年記念ポストカード



【展示史料 18】
25周年式典で功勞者に贈られた表彰状
(雛形)



【展示史料 19】
叙勲記念写真
前列左4番目から水野龍、内山岩太郎総領事、上塚周平

VI 経済・文化交流

展示史料 22 平生夙三郎経済使節団団長の御進講草案

展示史料 23 「ブラジル経済使節の日本訪問印象記」

1935（昭和10）年、川崎造船社長の平生夙三郎^{ひらおほちさぶろう}を団長とするブラジルへの経済使節団が派遣されました。本使節団派遣は、両国経済関係の促進を主眼としていましたが、同時にブラジル新憲法の移民制限※を緩和する親善使節としての役割も期待されました。使節団との協議において、当時コーヒー輸出が不振であったブラジルは、綿花輸出により自国側の入超であった貿易の均衡を図ろうとし、使節団もブラジル綿業が今後有望であるとしてこれに理解を示しました。使節団はブラジル各所を視察した後、同国外務省委員との間に通商に関する各種勧告、決議、宣言を採択して帰国しました。使節団団長を務めた平生は、帰国後の同年12月5日、昭和天皇に日伯貿易に関する御進講を行いました。平生の御進講草案には、ブラジル国民は概して親愛的で、ブラジルには移民制限はあるが排日なるものは無い、と記されています。

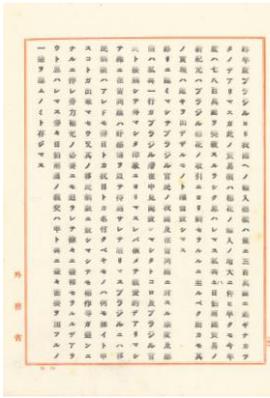
また翌1936（昭和11）年には、訪伯使節団への答礼としてブラジルからも使節団が来日し、日本の商工関係者と通商関係促進に関する協議を行いました。日本各地を巡遊し歓迎を受けました。ブラジル経済使節団の副使節が記した滞日印象記には、「ブラジル人のハートと日本人のハートが触れ合った」と感激ぶりが示されています。

※ブラジルの移民制限問題

外交関係樹立以来、日本とブラジルの関係はおおむね友好的でしたが、移民問題をめぐって摩擦もありました。ブラジルの移民制限は1923（大正12）年にレイス（Fidelis Reis）下院議員が提出した欧州移民奨励・有色人種移民排斥を基礎とする移民制限法案によって国家的な問題となりました。

レイス法案は廃案となりましたが、1930（昭和5）年からのサンパウロ護憲革命で設置された新憲法起草委員会が提出した憲法草案には移民制限条項が含まれ、1934（昭和9）年にそのまま可決されました。この条項は、移民の毎年の受入数を、過去50年間で定住した移民数の二分（2%）に各国一律に制限することを規定しており、当時最多であった日本移民を標的としたものとみられました。これに対し、日本政府は遺憾の意を表する覚書を発しました。

【展示史料 22】



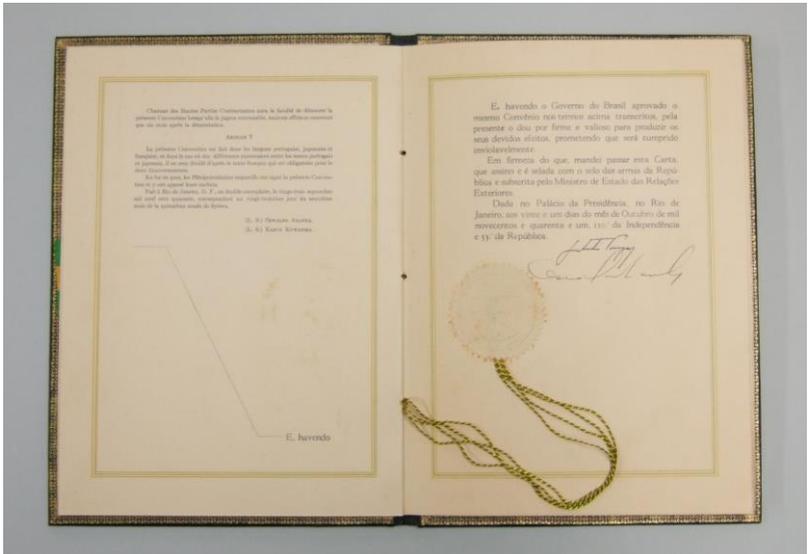
平生 夙三郎 經濟使節團 團長の御進講草案（写真は末尾部分）

…終リニ臨ミマシテブラジル官民ノ我国及在留同胞ニ対スル態度及感情ハ私共一行ガブラジル滞在中見聞イタシマシタトコロ及ブラジル官民ト接触シテ得マシタ印象ニヨリマスレバ極メテ親愛的デアリマシテ殊ニ在留同胞ハ好感情ヲ以テ待遇サレテ居リマス**ブラジルニハ移民制限ハアレドモ排日トカ抗日トカ名付クベキモノハ何モ無イ**ト申スコトガデキマセウ…日伯両国ノ親交ハ年ト共ニ益々密接ヲ加フルノ一途ヲ進ムノミト存ジマス

展示史料 24 「文化的協力に関する日本国ブラジル国間条約」 (批准書)

1938 (昭和 13) 年に国際連盟との協力を終止した日本にとって、各国との文化協定が、国際社会との協力関係の手がかりとなりました。文化協定を締結した国は、当初ドイツ、ハンガリー (1938 年調印)、イタリア (1939 年調印) などヨーロッパの友好国のみでしたが、1940 (昭和 15) 年 9 月 23 日に^{くわしまかぜえ}桑島主計駐ブラジル大使とアラニア (Osvaldo Aranha) ブラジル外相との間で調印された「日伯文化協定」(「文化的協力に関する日本国ブラジル国間条約」) は、米州諸国との間に結ばれた最初の文化協定となりました。この条約は、翌 1941 (昭和 16) 年 11 月 5 日に批准書が交換されましたが、その直後の 12 月 8 日に太平洋戦争が勃発し、日本とブラジルの国交が断絶したため、ほとんど効力を発揮しないまま失効しました。

両国の国交断絶によって、同年 6 月にブラジルに渡った「ぶえのすあいれす丸」を最後にブラジル移民は中断し、サンフランシスコ平和条約が発効する 1952 (昭和 27) 年まで、日本からブラジルへの移住 (戦後、「移民」に替わって「移住」の用語が使われるようになりました) は行われませんでした。第一回笠戸丸から 1941 年に至るブラジル移民の数は、累計 188,986 人にのぼりました。



【展示史料 24】
「文化的協力に関する日本国ブラジル国間条約」批准書

VII 戦後の交流

展示史料 25 「移住および植民に関する日本国とブラジル合衆国との間の協定」

1942（昭和17）年、日本とブラジルの外交関係が断絶し、1945（昭和20）年6月にブラジルは日本への対日宣戦布告を行いました。まもなく、日本は終戦を迎えることになりました。

明治期以来良好な関係を継続してきた両国は、戦後においても再び経済や文化面から友好関係の模索を開始しました。政治面においては、1951（昭和26）年9月8日に署名された、サンフランシスコ平和条約が、翌年4月28日発効したことにより、両国の外交関係が回復しました。同年9月には君塚慎^{きみづかしん}が戦後初の駐ブラジル国大使として着任しました。

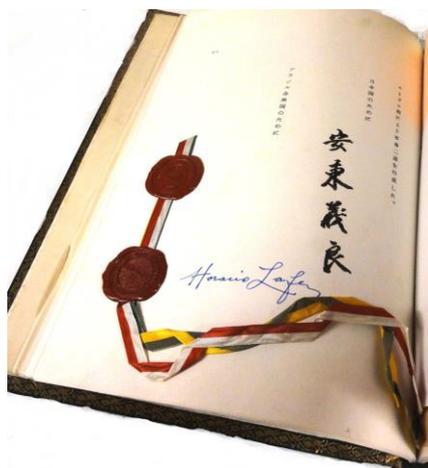
1954（昭和29）年にサンパウロ市400年祭が開催され、岡崎勝男外相がブラジルを訪問しました。日本は慶祝親善使節団を派遣し、国際見本市への日本製品の出品、日本館の建設、日本切手展、日本祭りなどを行いました。

こうして日本とブラジルの良好な関係が取り戻されていく中で、岸信介総理は1959（昭和34）年7月にブラジルを訪問しました。岸総理とジュセリーノ・クビチェック・デ・オリベイラ(Juscelino Kubitchek de Oliveira)大統領は27日に共同宣言を発表しました。このなかで「日伯経済関係が投資、移住及び貿易のごとき諸部門が相互に関連する有機的な形で更に一層緊密化しつゝ発展」との希望が表明されました。

このような政治、経済、文化面における両国関係の進展によって、1960（昭和35）年11月14日、リオデジャネイロ市で安東義良駐ブラジル大使とオラシオ・ラフェール(Horacio Lafer)外務大臣日本とブラジルの両代表は「移住および植民に関する日本国とブラジル合衆国との協定」に署名しました。この協定は、日本では翌年4月12日国会の承認を得、ブラジルでは1963（昭和38）年5月30日に上下両院の承認を得て、10月29日東京で批准書が交換されました。

本協定では、移住に関する両国間の協力を調整し、それぞれの利益

に合致する形で移住を組織化することが必要であるとの認識のもと、日本人の技術と労力の活用によるブラジル合衆国の経済開発を目的とし、国際協力の精神に基づいた適切な政策を実施することが両国の伝統的な友好のきずなを強化することにつながると明記されています。



【展示史料 25】

「移住および植民に関する日本国とブラジル合衆国との間の協定」

～近年の交流～



120周年記念ロゴマーク

ブラジル在住のブルーノ・ヒトシ・テルヤさんによってデザインされたこのロゴマークは、鶴の縁起物としての意味のほか、親しい人の健康などを折って千羽鶴を折る習慣から友情のシンボルとして着想されました。折り鶴をモチーフに、日本とブラジルの国旗の色が使用され、両国の120年に及ぶ友情が表現されています。

セラード農業開発 【写真：JICA 提供】



開発前



開発後

耕作に不適とされていたブラジル内陸部の広大な熱帯サバンナ地域、セラード。1977年～2001年にかけて行われた、土壌の改良や熱帯性品種の育種をはじめとする日本の農業開発支援によって、一大穀倉地帯に変貌し大豆の生産量も飛躍的に増加しました。日本の大豆輸入量の2割はブラジルから輸入しています(2013年)。



日本サッカーの発展にブラジルあり

Jリーグ発足後、ブラジルからトップレベルの選手や監督が続々と来日したことによって、日本のサッカーは飛躍的に発展しました。2014年、安倍総理はブラジルを訪問した際に、日本サッカーの発展に大きく貢献したブラジル人サッカー関係者に感謝の意を伝えました。

(写真は元日本代表監督のジーコ氏) 【写真：内閣広報室提供】

日本・ブラジル交流史年表（1867年～1960年）

赤字は展示史料と特に関係の深い事項 ※1867年1月は慶応2年12月にあたる

西暦	和暦	月	事項
1867	慶応2	1※	榎本武揚乗船の軍艦開陽丸、リオデジャネイロに寄港
1888	明治21	5	ブラジル国内の奴隷解放
1889	明治22	8	ブラジル軍艦アルミランデ・パローゾ号入港、乗組員および同乗の皇孫オーギュスト殿下が明治天皇に謁見
1891	明治24	8	外務省に移民課設置（2年後廃止）
1893	明治26	3	榎本武揚ら「殖民協会」設立
1894	明治27	7	根本正、中南米諸国視察に出発
1895	明治28	11	「日本国及伯刺西爾合衆国間修好通商航海条約」調印（1897年批准）
1897	明治30	8	在ブラジル公使館開設、初代駐ブラジル公使珍田捨巳着任
1905	明治38	4	杉村濬駐ブラジル公使着任
1908	明治41	4	第一回ブラジル移民船笠戸丸、神戸を出航（6月18日サントス着）
"	"	6	ブラジル海軍練習艦ベンジャミン・コンスタント号が世界周航中ウエーク島で遭難中の日本人を救助して横浜に入港、艦長ペレイラ中佐に叙勲
1910	明治43	6	軍艦生駒、アルゼンチン百年祭の帰途リオデジャネイロに寄港
1922	大正11	9	ブラジル独立百年祭
"	"	10	「レイス法案」下院に提出
1930	昭和5	10	ブラジル護憲革命（1932年終熄）
1932	昭和7	11	「日伯中央協会」設立、高松宮総裁就任
1933	昭和8	6	日本移民渡伯25周年記念式典、日本病院定礎式
1934	昭和9	7	移民二分制限条項を含むブラジル新憲法成立
1935	昭和10	5	ブラジルへ経済使節団派遣
1936	昭和11	9	ブラジルより答礼の経済使節団訪日
1939	昭和14	4	日本病院完成
1940	昭和15	9	「文化的協力に関する日本国ブラジル国間条約」調印（1941年批准）
1941	昭和16	6	戦前最後のブラジル移民船が渡伯
1959	昭和34	7	岸信介総理の中南米訪問、日伯共同宣言
1960	昭和35	11	「移住および植民に関する日本国とブラジル合衆国との間の協定」調印

主要参考文献

〈図書〉

- 入江寅次『邦人海外発展史』上・下（移民問題研究所、1939年）
青柳郁太郎『ブラジルに於ける日本人発展史』上（同刊行委員会、1941年）
永田稠『ブラジルに於ける日本人発展史』下（同刊行会、1953年）
内山勝男編『かさと丸』（日本移民五十年祭委員会、1958年）
外務省領事移住部編刊『わが国民の海外発展 移住百年の歩み』（1971年）
角山幸洋『榎本武揚とメキシコ殖民移住』（同文館、1987年）
黒田公男『日伯修好100周年 ブラジルへの虹』（財団法人日伯協会、1995年）
外山脩『ブラジル日系社会 百年の水流』（トッパン・プレス印刷出版、2006年）
ブラジル日本移民史料館・ブラジル日本移民百周年記念編纂委員会編
『目で見るブラジル日本移民の百年』（風響社、2008年）
水野龍「海外移民事業ト私」（ブラジル日本移民史料館所蔵）

〈外務省記録〉

- 「荷蘭製造軍艦開陽丸一件」（『統通信全覧』船艦門）
3. 8. 1. 6 「外務属根本正南米地方移民探検ノ為メ出張ノ件」
3. 8. 2. 38 「移民取扱人ヲ經由セル海外渡航者名簿」 30 卷
3. 8. 2. 94 「伯刺西爾国「サンパウロ」州ニ本邦移住民渡航一件」
3. 8. 2. 243 「皇国殖民合資会社伯刺西爾国移民取扱一件」
3. 8. 2. 369-1 「在外帝国公使館員視察報告雑件 伯国公使館ノ部」 2 卷
6. 4. 6. 4 「各国祝祭典及記念会関係雑件」 2 卷
3. 15. 2. 10-4 「各国博覧会関係雑件 伯国独立百年祭記念博覧会」
J. 1. 2. 0. J7-1 「本邦移民保護、奨励並救済関係雑件 伯国関係」 13 卷
L. 2. 2. 2. 4 「本邦人叙勲雑件」 2 卷
I. 3. 3. 1. 5-2 「本邦病院関係雑件 在「サンパウロ」日本病院建設関係」
K. 2. 1. 0. 4-1-4 「本邦人ノ海外視察旅行関係雑件（中国及満州国ヲ除ク） 視察団ノ部 訪伯
経済使節団関係」 4 卷
K. 2. 1. 0. 5-1-6 「外国人渡来関係雑件 視察団ノ部 伯国経済使節団関係」 3 卷
A' . 1. 5. 0. 5-2 「岸総理欧州及び中南米訪問一件（1959. 7） 中南米の部（国別）」 1~2 卷

◎本冊子は、2009年の特別展示「日本とブラジル 史料でたどる交流史」の展示史料解説を一部加筆、修正したものです。また、戦前期に使用された一部用語を、歴史的用法としてそのまま使用しました。

外務省外交史料館特別展示「日本とブラジルの120年」展示史料解説

平成27年10月13日 初版

※本展示解説冊子の一部を引用する場合には、必ず出典を明示してください。また、引用が一項目全体など長文にわたる場合には、事前に外交史料館にご相談ください。

外務省外交史料館

〒106-0041

東京都港区麻布台1丁目5番3号

Tel 03-3585-4511

